



近畿部会 市民公開講座『生活習慣病をもっと知ろう—食のパワーとくすりのはたらき—』

広報委員・大阪薬科大学 玄番 宗一 Munekazu Gemba

近畿部会における市民公開講座が、2005年11月11日(金)に、第108回本会近畿部会の開催に合わせて、同部会会場であるノボテル甲子園で開催されました。市民公開講座への取り組みは、広報委員会(遠藤政夫委員長)の重点項目の一つです。会長の國友勝・武庫川女子大学教授には、企画の当初からお骨折りを頂きました。市民への広報活動に際して、NHK(テレビ・ラジオ)、毎日・日経新聞、薬事日報、地域全戸無料配付誌(サンケイリビング・朝日ファミリー)および西宮市広報誌への案内記事掲載に加えて、阪神間の評議員(医薬関連教授)各位に案内『ちらし』配布のご協力をお願いしましたところ、平日にもかかわらず、約180名の参加者で座席がほぼ埋まりました。なお、その30%は『ちらし』を見て、20%はNHKを視聴して、17%は新聞・地域無料配付誌を見て、参加されました。これだけの案内を無料で、放送・掲載して頂いたお陰で、薬理学会の認知度を高めることができ、このような広報をして下さった関係機関に感謝します。参加者の内28名には、薬剤師研修受講シールをお渡ししました。レポート用紙やボールペンなどを6社の製薬企業からご提供を受け、参加者から喜ばれました。

参加者にとって最も重要なのが演者と講演内容であることは言うまでもありません。篠塚和正教授の司会により京都府立医科大学・矢部千尋教授が、『糖尿病とくすり』との薬理学会にたいへんマッチした演題でお話しされました。参加者が、先生の明解なご講演により、糖尿病とその合併症に加えて、治療薬の効き方と他のくすりと飲み合わせについても、理解を深めることができたようです。次に京都大学名誉教授・WHO循環器疾患専門委員家森幸男先生が、岩尾洋教授の司会のもと、『世界に学ぶ健康・長寿食—“一日

一膳”で生活習慣病は予防できる—』について、イソフラボンや多価不飽和脂肪酸などの含量の高い食事により、動脈硬化のような疾患を予防できることについて、調査結果をもとにわかりやすく説得力のある説明をされました。2名の演者の講演に対して、参加者からの質問が予想外に多くてたために、予定の時間が若干超過してしまいました。

参加された市民(約75%が50歳以上)へのアンケート結果から、『薬理学会』や『薬理学』という言葉を知っていた人は71%に達していました。これまでの近畿部会における市民公開講座開催は、全て秋の部会と同時間開催であり、平成11年京都(会長:谷口教授)、平成12年岐阜(会長:永井教授)、平成13年大阪(会長:岩尾教授)、平成14年岡山(会長:亀井教授)、平成15年大阪(会長:秦教授)に続いて、今回(平成17年)の西宮(会長:國友教授)での開催でした。その折々の近畿部会長各位には、部会のお世話に忙殺されながらも、市民講座のお世話を担って下さいました。常置委員会改組により新たに広報委員会が発足して以来、8カ年になろうとしています。近畿部会では、部会長のお力添えにより6カ年度にわたり市民公開講座を開催できました(この間、大阪で年会(会長:三木教授/責任者:松田教授)に合わせて、さらに1回開催されました)。参加市民は、隣の会場で薬理学会が開催されているのを目の当たりにされて、本学会への印象を強く持たれたことと思っています。また、近畿部会へ参加の会員各位にとっても、隣の会場を覗くと市民で満席であることに驚かれたことでしょう。今後も、市民への『くすりの作用と副作用』関連の啓蒙活動が、(社)日本薬理学会主催の市民公開講座を通じて、地域に根付くことを祈念します。



写真1 会場後方からの風景: 矢部千尋教授の明解な講演に聴き入る多数の参加者



写真2 家森幸男先生(右端)によるユーモアを交えた力強い講演に聴き入る参加者と司会の岩尾洋教授(手前後向)